

農業における激突災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
2	6~7	詰め作業場で、詰め作業が終わり、清掃作業中に詰機1号機の作業台（約18kg）を1人で元の位置に戻そうとして（通常2人作業）隣の2号機に当たり、バランスを崩し倒れ、左肩を負傷した。	59	100~299
2	14~15	敷地内において、木の枝の粉碎作業中、チップパーを使って枝の粉碎をしてチップパーを移動するのに運転席に座って移動させ、移動を止めて座席から飛び降りたところ（約50cm位）、足元が悪く左足首を捻り負傷した。	54	—
2	18~19	大根加工場で、出荷作業終了間際に加工場の外の作業員に流れ作業の終了を伝える為、移動する際に走ってしまい、鉄コンの陰で止まっていたフォークリフトが見えなかった為、爪のところにぶつかり、左脛のところを負傷してしまった。	37	30~49
4	9~10	園芸レジ横でダンボールを加工して苗箱を作成する作業をしていた際に、切断に使用していたカッターナイフの刃がダンボールの固い素材に引っ掛かったため力を入れたところ、勢いよく切れて自身の右ひざ上も切ってしまった。	65	10~29
4	11~12	圃場でじゃがいもを収穫し、トラックに積み込む作業中、コンテナを左足ひざの内側にぶつけて打撲した。	36	10~29
7	11~12	人参畑にて、トラックの荷台で作業を終え、荷台から地面に降りた際、膝を痛み負傷した。膝に違和感があった。	38	30~49
7	11~12	庭の樹木（生垣高さ=2.0m）の剪定を脚立6尺の2段目に足を置いて作業していたところ、身体がぐらつき不安定になり、脚立から飛び降りた。その時、身体的全	47	1~9

		体重が左足踵に掛かり骨折した。		
7	9~10	自社栽培地の畑にて、里芋の消毒作業が終わり、ホースを巻いて回収していた。畑の隅の列にあまった種芋を植えてあり、踏まないように注意喚起のために立ててあった農業資材の棒にホースが引っかかった。ホースを取ろうとしゃがもうとした時に、棒が目当たった。	19	1~9
7	16~17	敷地内で作業中に歩いて移動していたとき、敷地内に置いてあったコンテナに誤ってぶつかって転倒した際に、床に胸を強打した。	50	1~9
9	16~17	作業倉庫前において、フレコン（豆など入れる袋）を支える鉄の棒（4本足の丸リング型）を軽四から荷降ろし作業後、本人が降りる際、鉄の棒が逆になっている事に気付かず、お尻にささり重傷。	36	10~29
10	16~17	農家での米の積み込み作業終了後にトラックの荷台より降りた時、地面に木材があるのに気づかず、その木材に着地してしまい右足首付近を負傷した事故である。	41	1~9
10	16~17	植栽管理（高中木剪定）の作業中に、直径約20cm程度の切断された切り株に右足を掛け、剪定していたところ、その右足が滑り、切り株に股間を打ち付け、転倒。事務所まで戻るも、陰部の痛みが酷くなった。	49	1~9
10	13~14	敷地内のビニールハウス建設予定地にて、一人で高さ2.5mの三脚の脚立に上り、チェーンソーで周辺の樹木の枝打ち作業を行っていた際、バランスを崩し倒れそうになったため、咄嗟に脚立から飛び降り両足で着地したところ、激痛が走った。両足の踵骨骨折との診断を受けた。	63	1~9
11	13~14	共同住宅において草刈作業後の刈草の片付け中、塀の上よりコンクリート通路に飛び降りた際に（高さ約1.8m）負傷（左足踵骨折）したものである。	28	1~9
11	14~15	みかん畑で脚立を使ってみかんを収穫していた時に、木の奥にあるみかんを取ろうとして枝で肋骨を負傷した。当日は最後まで仕事をしたが、翌日の夜から痛みを感じ始め、後日病院で受診した。	58	1~9
12	20~21	体調不良のため早退し、自家用車で帰宅しようと駐車場から出口に向かって走行中、めまいがしてハンドル操作を誤り、空調の室外機に衝突した。	32	300~499

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html